

医学系研究に関する情報公開および研究協力のお願

聖隷浜松病院では、当院の臨床研究審査委員会の承認を得て、下記の医学系研究を実施しております。

研究の実施にあたり、対象となる方の既に存在する試料や情報、記録、あるいは、今後の情報、記録などを使用させていただきますが、対象となる方に新たな負担や制限が加わることは一切ありません。

ご自身の試料や情報、記録を研究に使用してほしくない場合や研究に関するお問い合わせなどがある場合は、以下の「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。研究への参加を希望されない場合、研究対象から除外させていただきます。研究への参加は自由意思であり、研究に参加されない場合でも、不利益を受けることは一切ありませんのでご安心下さい。

研究課題名	海綿状血管腫関連てんかんのFalse lateralizationの頻度と特徴
研究責任者	代表：波多野敬介 分担研究者：てんかん科 藤本礼尚、佐藤慶史郎、堀田龍矢、沼本真吾
研究実施体制	統計解析およびデータ収集：波多野、藤本、佐藤、堀田、沼本 単一施設、非盲検、後方視
研究期間	臨床研究審査委員会承認日～2024年3月
対象者	2009年3月から2023年3月の間に海綿状血管腫関連てんかんで当院に通院され脳波検査を実施している患者
研究の意義・目的	脳波所見が実際のとてんかん焦点と反対側を示すことを「False lateralization」といい、重度の海馬硬化症や広範に脳萎縮を認める症例で報告されている。海綿状血管腫関連てんかんにおける False lateralization のまとまった報告はなく、当院の症例で頻度および特徴を調べる。
研究の方法	【方法】海綿状血管腫関連てんかんの症例の画像所見、脳波所見、手術成績を調べる 【選択基準】海綿状血管腫関連てんかんの患者で脳波検査を実施している症例 【除外基準】脳波検査を受けていない症例、海綿状血管腫が多発しており発作焦点が判定できない症例 【予定症例数】40 症例 【症例数の設定根拠】2009年3月から2023年3月の間に海綿状血管腫で通院歴のある患者が116名
個人情報の取扱い	本研究で利用する資料や情報、記録からは、直接ご本人を特定できる個人情報は削除した上で、研究成果は学会や雑誌等で発表されます。取り扱う情報は、厳密に管理し、外部に漏洩することはありません。なお、個人情報の利用目的等について詳細をお知りになりたい場合は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
個人情報開示に係る手続き	個人情報開示の手続きについては、「問い合わせ窓口」にご相談下さい。
資料の閲覧について	ご要望があれば、開示可能な範囲で、この研究の計画や方法について資料をご覧いただくことができます。ご希望の方は、「問い合わせ窓口」までご連絡下さい。
問い合わせ窓口	聖隷浜松病院 てんかんセンター (氏名) 波多野敬介 TEL:053-474-2222(代表) てんかんセンター外来 9:00～17:00 平日